

2. 事業の背景と達成目標

【本事業に取り組む背景】

(1) 本市の人口動態及びスポーツ実施状況と健康課題の関係性

- ① 本市の総人口は、平成 17 年をピークに現在まで減少が続いているが、65 歳以上人口は一貫して増加傾向にあり、令和 22 年に 34,130 人とピークを迎え、今後 10 年以上、人口は減少するが、高齢者は増加し続ける。そして、本市における平均寿命と健康寿命の差は、国や滋賀県と比較して大きく、平成 27 年と令和 2 年を比較すると、男性・女性ともに「日常生活動作が自立していない期間」が拡大傾向にある。

出典 長浜市「長浜市人口ビジョン(令和 7 年)」「第 5 期健康ながはま 21(令和 6 年)」

- ② 要介護認定の主な原因疾患は、第 1 号被保険者において、認知症(26%)、筋骨格系疾患(21%)が多く、筋骨格系疾患については、特に女性で発症者が多い(他自治体事例では 7 割程度)。そして、入院外来の 1 人当たり医療費では、筋骨格系疾患はがんに次いで 2 番目に多く、特に入院医療費は増加傾向にある。

出典 長浜市「第 5 期健康ながはま 21(令和 6 年)」「第 3 期国民健康保険データヘルス計画(令和 6 年)」

- ③ 筋骨格系疾患は女性に多く、スポーツ実施等による予防が重要であるが、本市の女性の運動習慣者の割合は 30.2%(男性は 38.2%)で、県 35.9%と比較しても少ない。

出典 長浜市「第 5 期健康ながはま 21(令和 6 年)」※健診の問診票の運動習慣より

社会環境が変化する中で、前述の健康課題解決に向けたスポーツ施策の方向性を以下の通り整理した。

(2) 健康課題解決に向けたスポーツ施策の方向性

- ① 高齢者人口の増加する中で健康寿命延伸への貢献：令和 47 年まで、65 歳以上人口及び 75 歳以上人口の割合は増加し続けるため、健康寿命の延伸に向けた成果の出る施策が必要。

出典 長浜市「長浜市人口ビジョン(令和 7 年)」

- ② 女性高齢者の転倒・骨折リスクの抑制策の推進：筋骨格系疾患や転倒・骨折は、特に女性が多く、それに対する対策として、筋力トレーニングの普及と低栄養を防ぐ適切な食習慣が必要。

- ③ 地域資源の活用と産官学連携の推進：本市は、「国スポ開催を契機とした『スポーツのまち NAGAHAMA』プロジェクト」として「スポまち!表彰 2024」を受賞しており、スポーツ協会、スポーツ推進委員会、総合型地域スポーツクラブ、文化スポーツ事業団、医師会、大学等、多様な地域資源との連携基盤が存在する。

国スポ開催を契機とした「スポーツのまちNAGAHAMA」プロジェクト

スポまち！表彰2024
滋賀県長浜市

<目標> 計画期間：～令和11年3月31日

<継続的な取組を確保できる体制（図）>

- 官民一体となり地域資源や自然環境を活かした「スポーツ大会」や「スポーツ合宿」の誘致。
 - 競技団体等と連携し、開催競技を中心とした競技普及や競技団体の組織強化。
 - スポーツを「する」「みる」「支える」「関わる」市民の増加や興味関心を高める。
- 【数値目標】◆スポーツ合宿の受け入れチーム数〔R5〕3チーム→〔R10〕15チーム



<PRポイント>

- 国スポ・障スポ開催の効果・魅力を最大限に活かし、「スポーツのまちNAGAHAMA」を確立する。**
- 日本一の琵琶湖や雄大な自然環境、地域資源を活かした「スポーツ大会」「スポーツ合宿inながはま」の推進。
 - 競技団体と連携し、**園・学校への訪問による競技体験を実施し**、安全で楽しいスポーツの魅力を伝える。



<現状・課題>

- ・2025年（令和7年）「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催を契機として、競技普及や地域団体の組織強化、スポーツ振興に取り組み、両大会の有形・無形のレガシーを確実に継承する必要がある。
- ・日本一の琵琶湖や自然環境、地域資源を活かした取り組み、長浜市の魅力を向上し、広く発信したい。



出典 長浜市「国スポ開催を契機とした『スポーツのまち NAGAHAMA』プロジェクト（令和6年）」

- ④ **ポピュレーションアプローチによるスポーツ施策の必要性**：保健施策はハイリスク者への対応が主となってきていたため、スポーツ部局が保健部局と連携することによる、ハイリスク者を生みにくい地域システムの構築が必要。また、この施策により、スポーツ実施率の向上も期待される。